

金属労協 JCM 結成50周年記念レセプション（2014年9月2日）

ベルトホルト・フーバー インダストリーオール・グローバルユニオン会長挨拶（要旨）

ご出席の皆様、親愛なる仲間の皆様

本日、海外来賓の代表、そしてインダストリーオール・グローバルユニオンの代表として、全日本金属産業労働組合協議会結成50周年記念にあたりご挨拶させていただくことは、大変光栄であります。喜んでその任を果たしたく存じます。JCM は常に、インダストリーオール・グローバルユニオンにとってのみならず、加盟各組織にとっても、国際活動の中で重要な、そして信頼のおけるパートナーであります。



ここで少し歴史を振り返ってみたいと思います。

インダストリーオールの前身の一つは国際金属労連（IMF）で、自由民主主義に基づく国際労働組合組織の一つとして、1893年に設立されました。

1950年代以前、IMFは日本であまり知られていませんでしたが、当時の日本の経済成長を背景に、労働者と労働組合を取り巻く新しい状況に対応するため、50年代始めにオルグ活動を展開すべく日本に連絡事務所を設けることが計画されました。

こうして1957年4月、東京にIMF日本事務所が開設されました。以降、IMF東京事務所は日本の金属産業労働者の大同団結に向けて大きな役割を果たしました。その結果、1964年5月16日、47万人の組合員を擁するIMF-JCが設立され、その年の11月、ウィーンでの世界大会でIMF加盟が全会一致で承認されました。

その後もIMF-JCは、地域レベルの組織化活動も強化し、各地に地方組織を設置しました。

ここで特に申し上げたいのは、IMF-JC が国内での活動に留まらず、早い段階から、国際活動に注目していたということです。北欧の労働組合、そして後に IG-Metall（ドイツ金属労組）との定期協議を開始したことが、その証左と言えましょう。また 1985 年、東京で開催された IMF の世界大会では、ホストとして重要な役割も果たされました。

複雑化する組合に突きつけられる課題

近年、労働組合に突きつけられる課題は、ますます複雑になってきています。

グローバル化によって労使の力関係は、企業側に一層有利に、そして労働者側の負担を強いる方向へと変化しました。絶え間のない競争圧力と企業グループの再編、そして構造転換が、産業・雇用の国外移転を引き起こす一方、雇用関係が一層不安定になってきています。こうした動きは多くの場合、雇用と労働条件に著しい影響を及ぼしていて、労働組合に新しい、難しい課題を突きつけています。

これに加えて、個々の産業分野の区分が見えにくくなりました。私たちのメンバーが働く企業グループが、複数の産業分野にまたがって事業を展開しているからです。

これら全てが製造業の分野で、同じ立場に立って、組織化活動に成果を上げ、組合員の利益を代表する、強い労働組合の必要性をはっきりと示しています。

こうした必要性から、製造業全体を網羅する、グローバルな労働組合の国際組織を作ろうという考えが生まれました。私たちは皆の経験を持ち寄り、一致団結して、労働者、労働組合、そして人権擁護のために戦おうと思います。

このような考えから私たちは、国際金属労連（IMF）、国際化学エネルギー鉱山一般労連（ICEM）、国際繊維被服皮革労働組合同盟（ITGLWF）を統一して、インダストリアル・グローバルユニオンを結成しました。

IMF-JC はこの歩みを共に進み、共に実現させました。その成果が今日の英語の略称 JCM に現れています。

日本においても組合組織の統合がありました。また、これまで勝ち取った福祉水準を守り、雇用の不安定化を阻止するための戦いが、国内で繰り広げられています。そのため、春闘の要求を賃上げのみに限るのではなく、総合的な労働条件の改善要求にも重点をおいています。

同様に組織化活動でも、かなり前から正社員のみを対象とすることを止め、パート、派遣、請負労働者も含めるようになりました。青年・女性労働者の組織化にも力を入れる必要がありますし、そうなれば組合組織の構造にも、また指導部の中にも、彼らの活躍の場が必要です。日本でこのような難しい課題に直面しているのは、労働組合だけではありません。

近年、JCM は多くの危機を乗り越えねばなりませんでした。20 年に及ぶ経済の停滞、デフレ、2009 年の経済危機、2011 年の東日本大震災・津波・福島での原発事故、またタイの多くの日本企業が一時的に操業停止に追い込まれた洪水の影響、そして円高が、輸出に大きく依存する経済に強い打撃を与えました。

エネルギー危機への対策を講じなければならず、また、内需も活性化する必要があります。今年 JCM と加盟組合は、長期の賃金抑制を脱して、15 年ぶりに大きな賃上げを実現しました。これは重要な一歩だと思いますし、賃金政策における転機になって欲しいと考えています。

JCM はインダストリアルにとって重要、かつ信頼のおけるパートナー

JCM はインダストリアルにとって重要、かつ信頼のおけるパートナーであり、グローバルな組合組織の構造を共に支えてくれています。会費を納めてくださっているだけでなく、とりわけ人権と労働者の権利の貫徹、不安定雇用に対する闘い、統一した強い

組合の構築、安定雇用の確保、労働条件の改善などにおいて、世界中で熱心に活動を展開されています。

日本の金属産業労働組合の50年間を振り返りますと、良い時期も悪い時期もありました。難しい時にこそ、組合運動発展のために画期的な戦略を打ち出すことが重要になりますが、皆様はそれに成功されたと思います。これからの50年も、その成功が続くことを願っております。

この間のこうした成功は、なによりも西原さんと若松さんのご尽力の賜物と思います。お二方はインダストリアルズの執行委員会でも、各種会議体、作業グループ、その他の会合でも、常に重要な役割を良く果たしてこられました。

この場をお借りしてお二人に、連帯感に満ちたお仕事とご支援に、心から感謝いたします。西原さん、若松さん、これからもますますのご多幸をお祈りします。

またJCMにも、相原新議長と新たな執行部の下で、すばらしき未来が来るようお祈りします。

親愛なる仲間達！全世界で組合運動に一層の強さと力、そして広く聞こえる声を与えるのは、私たち自身なのです。良き未来は労働者と、労働組合によってのみ実現するのだと、私は確信しています。

ご清聴ありがとうございました。